

2018年度 新専門医制度
膠原病科
Rheumatology

研修プログラム到達目標

内科専門医として必要なリウマチ・膠原病の知識を
習得し、全人的な医療を実践する。

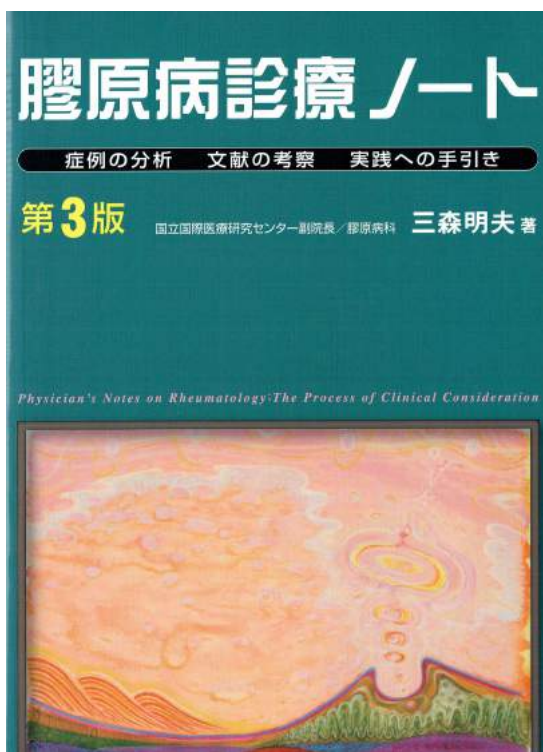
明日のリウマチ専門医を育成する。



プログラム責任者：金子礼志
連絡先：hkaneko@hosp.ncgm.go.jp

診療科の概要

膠原病科
Rheumatology



- 膠原病疾患が豊富に集まっており、入院患者数も常時20～30名と都内でも屈指である。他施設における難治例についても積極的に受け入れ、診療を行っている。
- 上記症例の周辺領域まで診療を行うため、内科を総合的に研修できる。熱性疾患を取り扱うことも多々あり、感染症診療や血液悪性疾患の診断などを経験することもあるが、当院の細分化された他科との連携で診療可能である。
- 当科執筆の「膠原病診療ノート」や「膠原病徹底考察ガイド」があり、それに沿って研修することにより、専門医取得を目標とした知識と経験を学ぶことができる。

- リウマチ膠原病と炎症性疾患を診療経験することで、将来的に内科専門医としてリーダーシップを発揮できる人材を育成する。
- 重点研修タイプを選択された場合は、研究会などで症例報告し、学会総会などにおいては症例集計解析したものを発表し、さらに論文投稿まで行う。
- 臨床や学会活動を通じて、日本内科学会専門医はもとより、重点研修2年型であれば日本リウマチ学会専門医獲得も可能である。
- 重点研修の進捗状況によっては、研究所や連携大学院との共同で実験研究も可能であり、論文完成まで目標とすることができる。

研修内容と到達目標

膠原病科

Rheumatology



研修終了後の進路

膠原病科

Rheumatology

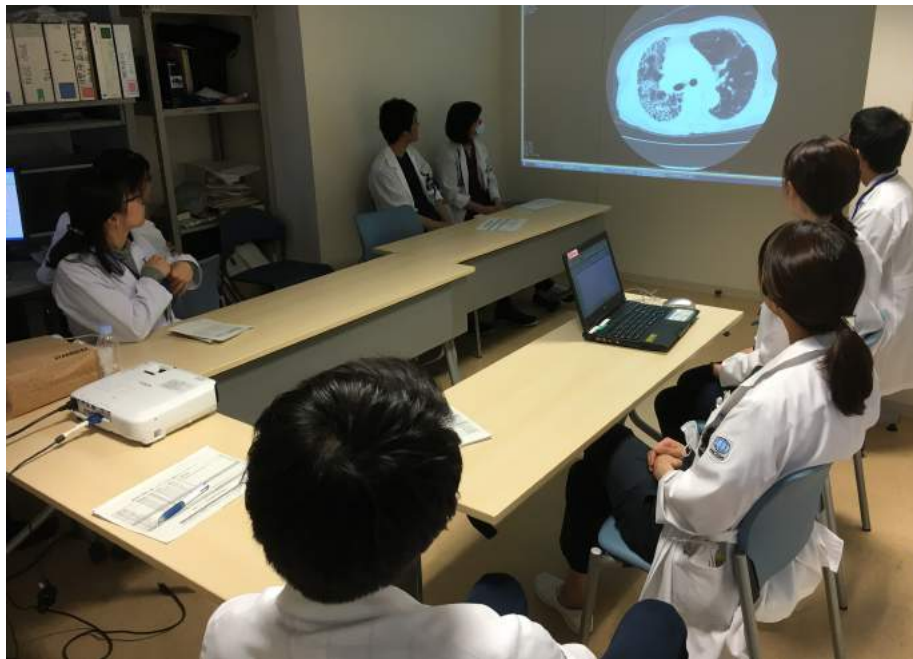


- 当科研修修了者は日本内科学会専門医と日本リウマチ学会専門医*を取得している。
- 進路に関しては、当科でフェローとして継続している者、大学院へ進学する者、他の基幹病院で指導的な立場で活躍している者など様々である。
- 膠原病科を専門として備えた病院は少なく、当科研修修了者は全国の病院で重宝されている。詳細に関しては、[当科のホームページ](#)を参照されたい。

*なお、新内科専門医制度下での日本リウマチ学会専門医取得希望者は、原則として重点研修2年型を選択していただきます。

3ヶ月ローテーション 到達目標

膠原病科
Rheumatology



- 入院患者の管理を指導医とともに行う.
- ステロイドの使い方や免疫抑制剤の使い方を習得する.
- 初期研修の段階で、膠原病を診療したことがなく、将来、別の内科領域に進む方が対象となる.

4.5ヶ月ローテーション 到達目標

膠原病科
Rheumatology

- 代表的な膠原病の診断・治療を指導医とともに実践する.
- 慢性期の外来診療は行わないが、外来処置（関節液穿刺や注射）や急性期対応の外来診療を行う.
- 3ヶ月ローテーションと同様、初期研修において膠原病診療未経験者や将来、別の内科領域への進路を考えている方が対象となる.



6ヶ月ローテーション 到達目標

膠原病科
Rheumatology



- 関節リウマチの急性期・合併症・慢性管理が行えるようになる.
- 上記目標達成のために、入院中担当した患者について、退院後の外来診療も短期ではあるが行うこともある.
- 4.5ヶ月ローテーションよりは膠原病診療をより多く学べるため、将来、膠原病に関連した診療科に進む可能性がある方を対象とする.

短期ローテーション期間による到達目標

膠原病科 Rheumatology

3
months

入院患者の管理.
ステロイドの使い方、免疫抑制剤の使い方を習得.

4.5
months

代表的な膠原病の診断、治療の実践.
外来処置（関節液穿刺や注射）、急性期対応.

6
months

関節リウマチの急性期・合併症・慢性管理.
入院担当患者の退院後の外来診療.

重点研修タイプ1年型

膠原病科

Rheumatology

将来、リウマチ膠原病領域に従事する方が対象

- 病棟担当医として、様々なリウマチ性疾患や熱性疾患の診療に従事し、鑑別診断や治療法を提示できるようになることを目標とする。
- 外来診療を通じて、合併症や有害事象に関する予測とともに、その早期診断や対処法についても対応できるようになる。
- 初期研修医への指導を行い、各症例の問題点を的確に理解し、ディスカッションを行う。
- 研究会等で、症例発表とその論文化を行う。

重点研修タイプ2年型

膠原病科

Rheumatology

日本リウマチ学会専門医取得
までを視野に入れた方が対象

- 1年型研修目標に以下の内容が加わる.
- 関節超音波の手技を学ぶ.
- 専門医の指導のもと、症例集計解析を行い、国内外の学会で発表し論文化する.
- 希望者は、その研修到達度に応じて、研究所での研究も行う.
- 日本内科学会専門医だけでなく日本リウマチ学会専門医を取得する.